

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「利用者ひとり、ひとりが、ゆったりとした、日々を過ごすことが出来るよう、介護支援を致します。」この理念に基づき日々ケアにあたっている。	
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の細かな引き継ぎと毎月のフロアー会議などに於いて、個々のケアカンファレンスを中心に、理念の実現に向けて日々努力を重ねている。	○ 常に小さな変化を見逃さず、情報交換、意見交換を行っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を玄関に掲示し、見学时、入居時、家族会などで随時伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日々の挨拶は勿論、お彼岸にみんなで作ったおはぎや畑で穫れた野菜のおすそ分け。「皆さんで」と差し入れを頂くこともある。又、近所の理髪店、コンビニやスーパーも利用しホームを認識してもらえるよう努めている。	○ 行事の時などに気軽に参加してもらえるよう声を掛けていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の活動として、総会、ゴミ拾いへの参加。宮の森保育園の運動会へ入居者とともに参加させてもらっている。	○ 老人会や行事などに、入居者、家族もともに参加できる機会を増やしていきたいと思っている。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	入居者の夫が日中一人になり、家族の心配、不安が大きいため、週二回来所してもらい妻の食事介助の手伝い、他者と一緒に談話やレクリエーションなどを行っている。	○ 地域の高齢者の方々が気軽に来所し、交流の場を持つことが出来る機会を作れたらよいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行い、外部評価を受けることで、足りない点や今後の課題が見えてくるので、次につなげていくことが出来ると思う。	
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議自体がまだ十分な内容として展開されていないが、町内会の方々によるホームの見学が実施され、更に地域に浸透したくさんの意見を頂きたいと思う。	○ 家族会と合わせ運営推進会議を行う。行事などに合わせ地域の方々に来所してもらう。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市より知らせのある研修会や勉強会にはできる限り参加している。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会や管理者会議などで学んだ内容、フロア会議にて各スタッフへ伝え学ぶ機会を設けている。	○ 今後も研修会や勉強会に参加して学ぶ機会を増やしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修会などに参加し、個々のスタッフのスキルアップをはかるとともに、絶対にあってはならないよう努力している。	○ 虐待に至る経緯(スタッフのモラル、ストレス)、十分な教育と指導、スタッフ間のコミュニケーション、休養などに配慮していきたいと思う。
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項などで説明し、十分な話し合いを心掛けている。解約の事例はなし。	○ どうしても家族の思いが中心になってしまう傾向がある。利用者を第一に家族にも理解してもらえよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見、不満、苦情などは都度受入れ、迅速な対応を心掛け改善に努力している。</p>	○	<p>努力はしているが家族の思いが優先されてしまう傾向があるため、入居者の思いを家族へも伝えることに努めている。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>面会の都度、毎月の家族会、さとほろ便りなどにて行い、状況に応じては電話連絡を行っている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>都度受け入れている。又、毎月の家族会、運営推進会議にて、そのような場を設け改善に努めている。</p>	○	<p>入居者の思いを、家族に伝えることも心掛けている。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全体会議にて、フロア一責任者を通し、又は直接聞く機会がある。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>出来るだけそのような対応が出来るよう努力している。</p>	○	<p>十分な人数のスタッフの確保に努めたい。</p>
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>各フロアを自由に行き来することで、全スタッフが馴染みの関係でいられるよう心掛けている。職員への待遇など十分に努力し、離職は必要最小限に抑えられていると思う。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>採用時の研修と経過を見ながらのフォローアップを行い法人外の研修については、希望者はもちろん、必要と思われる研修には参加を義務づけている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他ホームの見学を行い、その様子をスタッフ間で報告している。</p>	<p>○ 研修会などへの参加を通して、そのような機会を増やしていきたいと思う。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>勤務表を作成する上で、心身ともに十分に休める内容を心掛けているが、それだけでは十分とは言えない。</p>	<p>○ スタッフ間の交流の場を増やしていきたい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>フロア一責任者からの報告、実際に現場での把握が行われている。</p>	<p>○ 各スタッフの努力は給与などで反映している。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>十分に話し合う場を設ける努力はするも、家族の意向が中心となってしまうことが少ない。</p>	<p>○ 本人の心の声を聴くことを心掛け、家族へもそれを伝え共に関われる環境作りに努めたいと思う。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>十分に努力はしているが、それが利用者にとってすべて良い方向に導いているとは思えないこともある。</p>	<p>○ 利用者の心の声を伝えることも続けていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	いろいろなサービスを利用の後、ホームへの入居を希望されてくるケースがほとんどのため、そのような機会はないも、入居後に状況が変わった場合は都度話し合うことを心掛けている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族の都合により即入居...というケースがほとんどのため、面会を増やしてもらうなど不安や心配を最小限にできるよう努力している。	○	本人が納得、安心して入居が出来るよう家族とも十分に話し合い、環境を整えていきたいと思う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人が出来ること、得意分野を見出し共に行うよう配慮している。又、共に昔を振り返り、個人の過去に触れることで昔ながらの文化を学ぶことがある。	○	先に歩み、多くのものを築いてこられた人生の先輩として、常に敬う気持ちを忘れないことを心掛けている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の家族会や行事には出来るだけ参加してもらい、本人と一緒に時間を過ごせるよう支援している。ケアプランにも家族の意見を取り入れている。	○	家族との関わりをととても大切にしている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの生活歴を知り、本人と家族の思いを考慮した上で、適当な距離感を大切にしながら良い関係を続けていけるよう努めている。	○	機会があるごとに、家族と話す場を設け本人をよく知る、理解する努力をしている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の面会は頻回にあり、行事などにも参加の声掛けを行っている。自宅への外出、外泊も行われている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い入居者が、自由に各フロアーを行き来できるように努めている。席替えをしたり、間にスタッフが入ることで入居者同士が関わりを持てるように工夫している。	○	進んで関わりを持つことが難しい為、常にスタッフが仲保となれるよう心掛けています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所した家族からウェス用にと布を送って頂くことがあり、責任者が代表で連絡をとっている。他所へ移った人のもとへ責任者や管理者が様子を見に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の思いや希望、意志などをうまく表現でない方が多いので、家族の方と相談しながらできるだけ本人の思いに添えるように努力している。	○	ひとりひとりの心の声を聞ける自分達になれるよう、相手をよく知る努力をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人と家族から可能な限りの情報収集を行っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日勤帯、夜間帯一日を通し、ひとりひとりのケアプランに添った記録を取り、細かなことや言動、状況などひとりひとりの心身の状態を把握するように努めている。	○	細かな引き継ぎを徹底している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	見直しについては、毎月の定例会議の場でフロアー全スタッフと意見、情報交換を行い、介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況の変化に伴い、常に見直しを行うとともに、3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。介護支援専門員の適切な監理のもとに、家族と相談し他スタッフの意見も参考に現状にあった計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ひとりひとりのケアプランにあった細かな記録と、ひとりひとりの自立支援にむけての実践を行い、次の介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族より相談を受け、入居者の夫が、週2回妻の食事介助の為来所し、ホームにて過ごされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	3Fにてボランティアの方々と手芸を行う際には、行える方は参加し、手伝ってもらいながら作品作りを支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は該当者なく事例なし。	○	今後、入居者の意向や必要性に応じ、取組んでいきたいと思う。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は事例なし。	○	同上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>43 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>一週間に一度、訪問看護を受けている。都度、不安な事など相談できる。又、かかりつけ医師がおり24H往診可の体制をとっている。</p>		
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医療機関(慈啓会病院)との提携により、定期受診の実施、必要に応じての受診を行っている。</p>		
<p>○看護職との協働</p> <p>45 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>一週間に一度、訪問看護を受けている。</p>		
<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>46 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>できるだけ面会に行き、病院関係者から報告を受け、情報交換を行っている。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>47 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>家族とかかりつけ医師とで終末期についての話し合いの場を設けた。家族の意向についても書類に残しながら細かく内容を確認している。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>48 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>定期的に家族に意志確認をし、希望され続けるかぎり終末期に向けた話し合いの場を設け、その内容を医師に提示し、今後について決めている体制をとっている。</p>	○	<p>家族の思いは状況に応じて変化が見られる。都度、状況を共有し話し合いの場を設けていくことを心掛けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	自宅から馴染みの家具等を持ち込んだり、ホームでの生活に慣れるまで家族に來訪して頂いている。他施設へ移り住む際には、添書を作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ひとりひとりが注意するだけではなく、スタッフ同士で声を掛け合う等し、プライバシーの確保に努めている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人がより理解しやすい方法を考え、時に非言語的コミュニケーションを交えて、本人の希望や訴えに応じられるよう努めている。	○	相手をよく知る努力を常に重ねている。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り入居者の希望を中心としたサービスを心掛けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	自宅で生活していた時の服を持ち込み、好みの服が着られるようにしている。外出時など、拒否のない限り化粧介助をしている。	○	希望により近所の理髪店を定期的に利用している。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の能力に応じて準備、片付け(茶碗拭き等)をしてもらっている。食事が楽しいものになるよう盛り付け、色など工夫している。	○	ひとりひとりの好みの把握や願いに答えられるよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>55 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>健康に支障のない範囲で提供している。</p>		<p>ミスドに行ってドーナツとコーヒーを頂く。スーパーで好みのおやつを一緒に買う。など行っている。</p>
<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>56 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>出来るだけトイレでの排泄を促し、声掛けを工夫したり、状況を見ながらトイレ誘導を行っている。日中においては、ほとんどの方が布パンツを使用している。</p>	○	<p>ひとりひとりの排泄パターンをよく知り、小さなサインを見逃さないよう努力している。 全員のトイレでの排泄を誘導している。</p>
<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>57 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>曜日、時間帯を自己決定できる方が少ない事もあり、基本的な回数を決め、体調や気分に合わせて曜日を調整するよう配慮している。</p>	○	<p>入浴を好まない人には自分で曜日を決めてもらっている。</p>
<p>○安眠や休息の支援</p> <p>58 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>状況に応じて臥床誘導や声掛けをしている。必ず安否確認を行っている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>59 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>ひとりひとりの趣味や特技を生かせる時間、場の提供に励んでいる。</p>		
<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>60 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>金銭管理が行える方は、お金を所持している。買い物の申し出は無く、こちらから声を掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い出しなど、気軽に外へ出られるよう機会作りに努めている。	○	自ら外出を求められる方がほとんどいない為、こちら側がその環境を作り、喜んでもらえるよう努めている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出行事などで、家族と入居者全員が参加できるように努めている。個別には散歩や家族との外出、外食など、入居者数人でのドライブなど行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望があった際には電話をすることができる状態である。年賀状や暑中見舞いなど定期的な手紙のやり取りをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	常時訪問を受け付けており、本人とゆっくり過ごす時間が持てるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全スタッフが徹底して身体拘束のない介護に取り組み、実施している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間のみ防犯対策として玄関に鍵をかけているが、日中は常に開放している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>常に入居者の所在確認に努めると同時に、気分の変化にも注意している。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>ひとりひとりの危険に対する認知度を把握した上で、個別の対応をしている。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>実例をふまえ、臨機応変な対応がとれるよう話し合う場を設けている。 消防訓練、救命講習を受講した。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>消防署の協力を得て救命講習を受けており、実践に生かせるようマニュアルを用意している。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防署の救命講習の際に、火災が起きた場合の避難方法を教わった。</p>	○	<p>同じマンションの住人の方々に協力を得られる働きかけや、グループホームの存在を町内の方々にも、もっと知ってもらおう。</p>
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>ケアプランの提示と共に起こり得るリスクを家族に説明し、家族の意向もふまえてひとりひとりが抑圧感のない安全な生活ができるよう支援している。</p>	○	<p>機会がある度に現状の報告と予測されるリスク等については伝え、家族の協力を得ている。</p>
<p>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	急変や異変に気付いた際は速やかにその日のリーダーもしくは責任者、または管理者へ報告し、適切な対応をしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりが理解した上で服薬支援にあたっている。	○	常に細かな引き継ぎを徹底している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一人ひとりの便通のリズムを把握し、飲水物の工夫や可能な範囲で運動を取り入れ、便秘予防に努めている。	○	服薬に頼らない自然排便を心掛けている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後に口腔ケアの促しをし、必要な方には介助している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスを考えた献立を考えている。 年齢、状態に応じたカロリーにしている。 水分は表に応じて必要分を確保できるよう促している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外から戻ってきた際にはうがい手洗いを徹底している。食中毒早見表を貼り出している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	包丁、まな板の消毒を頻繁に行う。 食べきれない量だけを作るよう心掛ける。 農薬の少ない食材、調味料を使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	マンションなので建物の周囲の工夫はしていないが、玄関前や玄関内は季節に合わせた草花や飾り付け等で工夫している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	月ごと行事ごと季節ごとに、いろいろな工夫で飾り付けなどを行っている。	○ 常にひとりひとりのとっておきの笑顔の写真を提示している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓での席が一応決まっており、その時の状況で談話室のソファや洗面所前のイスに誘導することで落ちついたり、不安なく過ごせるように工夫している。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具や装飾品など自宅で使用していた物をできる限り持ち込む事で居心地の良い環境作りに配慮している。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室や共有スペースに温・湿度計を置き、こまめにチェック、調節が出来るようにしている。	○ 毎朝の換気を徹底している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者ひとりひとりに合わせた居宅の環境作りやベッドの高さや柵、イス等を使用し、安全、自立した生活を送れる様支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>入居者ひとりひとりをよく知る努力を心掛け、その人に合った対応の工夫をしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>花の水やりや、洗濯物を干したり取り込んだりなど、作業としてベランダへ出ている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない 日々掴む努力をしている。そして、そうでなければならないと強く思っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	●①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない 重度化しつつある現状を限られたスタッフと、難しい面もあるが、時間ではなく、関われる一瞬一瞬にその思いを心掛けている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ひとりひとりをよく知ること、理解する努力を重ね、その人にとって穏やかで楽しい1日であるよう共に過ごしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 最高の笑顔を引き出せるよう、私自身が入居者との毎日を楽しみ感謝して過ごさせてもらっている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 本人からの希望は少ない現状にあるが、外出することで「楽しい」と思ってもらえるよう、できる限り努力をしている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない 協力病院や提携病院、訪問ナース等の環境を整えている。小さな変化にも気付けるようスタッフ間での連絡を徹底している。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	●①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ひとりひとりをよく知ることを心掛け、チームケアで取り組んでいる。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	●①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない 家族とのコミュニケーションは十分にとれていると思う。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	●①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない 家族の面会が多い方だと思う。ボランティア、週1日の訪問ナースの来所がある。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ●②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p> <p>町内会の方々のホーム見学が実施された。</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ●②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>私はホームでの毎日がとても楽しいです。休みが続くと早くホームに来たくになります。</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>●①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>満足されていると思いたいが、まだまだ足りないことも多々あると思う。「これでよし」ということは決してないのだから前進あるのみ。</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>●①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>私は、足りない点多々あると思うけど、精一杯1日1日をみんなと楽しんでいるので、家族も喜んでくれていると思いたい。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・各スタッフの得意分野を發揮し、ひとりひとりが楽しく働いていると思う。
- ・自分の親を..自分が..入居したいと思えるホームを目指しています。